

6節 アクリル非水分散形樹脂塗料塗り(NAD)

18.6.1 一般事項

この節は、屋内のコンクリート面、モルタル面等のアクリル樹脂系非水分散形塗料塗りに適用する。

18.6.2 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りは表18.6.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表18.6.1 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

工 程	種 別		塗 料 そ の 他		塗付量 (kg/m ²)
	A種	B種	規格番号	規格名称	
素地ごしらえ	○		モルタル面の素地ごしらえは、表18.2.4によるB種とする。 コンクリート面の素地ごしらえは、表18.2.5によるB種とする。 押出成形セメント板面の素地ごしらえは、表18.2.6によるB種とする。		
1 下塗り	○	○	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	0.10
2 研磨紙刷り	○	—	研磨紙刷りP220~240		
3 中塗り	○	—	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	0.10
4 上塗り	○	○	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	0.10

(注) 素地ごしらえの種別は、塗料その他の欄による。

【表18.2.4 モルタル面及びせっこうプラスター面の素地ごしらえ】

工 程	種 別		塗 料 そ の 他			面の処理
	A種	B種	規格番号	規格名称等	種 類	
1 乾燥	○	○	—			素地を十分に乾燥させる
2 汚れ、付着物除去	○	○	—			素地を傷つけないように除去する
3 吸込み止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	全面に塗り付ける
4 穴埋め・パテかい	○	○	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	ひび割れ、穴等を埋めて、不陸を調整する
			JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
5 研磨紙刷り	○	○	研磨紙P120~220			乾燥後、表面を平らに研磨する
6 パテしごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	全面をしごき取り、平滑にする
			JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
7 研磨紙刷り	○	—	研磨紙P120~220			乾燥後、全面を平らに研磨する

(注) 1. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの場合、工程3の吸込み止めは、塗料の製造所の指定するものとする。

2. 合成樹脂エマルジョンパテは外部に用いない。

【表18.2.5 コンクリート面、ALCパネル面の素地ごしらえ】

工 程	種 別		塗 料 そ の 他			面の処理
	A種	B種	規格番号	規格名称	種 類	
1 乾燥	○	○	—			素地を十分に乾燥させる
2 汚れ、付着物除去	○	○	—			素地を傷つけないように除去する
3 吸込み止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	全面に塗り付ける
4 下地調整塗り	○	○	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1、C-2 CM-2又はE	全面に塗り付けて平滑にする
5 研磨紙刷り	○	○	研磨紙P120~220			乾燥後、表面を平らに研磨する
6 パテしごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	全面をしごき取り平滑にする
			JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
7 研磨紙刷り	○	—	研磨紙P120~220			乾燥後、全面を平らに研磨する

(注) 1. コンクリート面の場合は、工程3を省略する。

2. 合成樹脂エマルジョンパテは外部に用いない。

3. 工程4の建築用下地調整塗材のC-1、C-2、CM-2又はEの使い分けは、15.6.5[下地調整]の(1)及び(4)による。

表18. 2. 6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ

工 程	種 別		塗 料 そ の 他			面の処理
	A種	B種	規格番号	規格名称	種 類	
1 乾燥	○	○	—			素地を十分に乾燥させる
2 汚れ、付着物除去	○	○	—			素地を傷つけないように除去する
3 下地調整塗り (注)1	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1,C-2 又はCM-2	全面に塗り付けて平滑にする
4 吸込み止め	○	○	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラー及び 弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー		全面に塗り付ける
5 パテしごき	○	—	JASS 18 M-202	反応形合成樹脂パテ	2液形エポキシ樹脂パテ	全面をしごき取り平滑にする
6 研磨紙刷り	○	—	研磨紙P120~220			乾燥後、全面を平らに研磨する

(注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程3を省略する。

2. 7節[耐候性塗料塗り(DP)]におけるコンクリート面の場合、工程3の建築用下地調整塗材のC-1、C-2又はCM-2の使い分けは、15. 6. 5[下地調整](1)による。

3. 工程4のシーラー及び工程5のパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。

4. JASS 18 M-201及びM-202は、日本建築学会材料規格である。

【15. 6. 5 下地調整】

(1) コンクリート面の下地調整は、次による。

(ア) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。

(イ) 下地面の清掃を行う。

(ウ) 下地調整塗材C-2を、1~2mm程度全面に塗り付けて、平滑にする。

ただし、スラブ下等の見上げ面、厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。

(エ) 下地の不陸調整厚さが1mm以下の場合は、(ウ)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗り付けることが出来る。

(オ) 下地の不陸調整厚さが3mmを超えて10mm以下の場合は、(ウ)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材CM-2を平滑に塗り付ける。